「お米の出前授業」～産直のパルシステム”による米づくり・食の大切さを学ぶ～

社会　家庭　総合

- 実施日　　令和3年５月6日（木）
- 実施校　　墨田区立第四吾嬬小学校　５年生（30 名）
- 講　師　　生協パルシステム
- 内　容　　**「お米の学習・苗植え実習」**

学 習
- 米づくりの一年の農作業を学ぶ。
- 米づくりと自然環境とのかかわり、米づくりと食生活との関連についてなどを学び、理解を深める。
- 生産者の抱える問題について学ぶ。

苗植え実習
- バケツに苗を植える実習。
- 栽培を通じて米づくりの大変さを学ぶ。
- パルシステムならではの農薬削減または不使用の苗、バケツ稲栽培用の 100%有機質肥料を使用。

【児童の感想文から】
- まず、土と水を入れてどろ水を作った。土や水のかげんがむずかしかった。どろ水をまぜる時に、土がどんどん下に行ってしまった。これからの自分のめあては、毎日バケツいねを見て、水がへっていないかたしかめること。
- 初めはどろに手をつけることにびびっていた。けれど、友だちが「大丈夫」と言ったので手を入れるとすごく気持ちよかったし、うれしかったです。
- 自分のバケツに土を五はいほど入れました。そして水を入れてかき混ぜようとしましたがぼくは虫がきらいなので、混ぜられるかドキドキしました。でもがんばってかた手だけ入れて混ぜました。三角形にさすのがむずかしかったです。これだけでもこんなにお米を作るのが大変なんだと知りました。これからもお米は残さず食べたいです。
- 私はこれから草をとったり、水を入れたりして、田をかんりしようと思います。
- 土のかげんが分からなくて大変だった。改めてありがたみを感じた。ぼくの家のいただきますの「今日の健康に感謝していただきます」はその通り！私たちが健康に生きられるのは、食べ物、それを作ってくれているのは農業のみなさん！感謝！自分らはいつも通りなにげなく、気にせずに食べていたけれど、農業のみなさんの苦労を（まだ少ししかやっていないけれど）感じ、ひとつぶひとつぶ残さずに食品ロスもなくして、農家さんたちに楽になってほしい。（結局手はすべすべにならなかったが）
- 四吾小に来てくださった先生から「田植えで『イヤだった』と言う人はいなかった」と聞いて、私は多分『イヤ』と言うと思っていました。ですが言いませんでした。その訳は…ドロパックです！もともと飼っている犬の通っているサロンはドロパックができるので、一応肌には良いと感じていましたが、信じていませんでした。でも水で洗った後、ツルツルになったので、1/100 は頭がよくなったなと思いました。

【写真及び資料提供　四吾小・５年１組担任福原先生】

☆この体験学習は、今年度は第二寺島小、中川小、第三寺島小、立花吾嬬の森小も実施しています。